

写真版 LL ブック 第 2 作『はつ恋』(2017 年 4 月 27 日刊行)

1. 写真版 LL ブック出版の企画意図

私たちは、新聞や雑誌、インターネットなどの電子媒体によって、毎日何かを読んで情報を得たり、楽しんだりしています。読むことは、ごはんを食べることと同じようにあたりまえのことです。読書は楽しみであり、心を育て、生活を豊かにします。そして、新しい必要な情報を得る大事な行為です。

知的障害や自閉症等により文字が読めない障害児者にとっても、読書を楽しみ、情報を得ることは基本的な人権に関わる保障されるべき事柄です。しかし、現在の出版物の表現媒体は文字が中心であり、子ども向け以外の本は、内容も表現も複雑で高度です。これでは、彼らは読むことができません。

彼らにとって、興味のある、知りたいことが書かれている、読みやすく、わかりやすい本や雑誌があれば、読書を楽しむことができます。そのような本を LL ブックという名称で呼んでいます。LL とはスウェーデン語の Lättläst の略で、「やさしく読みやすい」という意味です。

私たちは、知的障害や自閉症等の人が楽しめる本を目指して、LL ブックの特徴が最も明確に表現できる文字のない写真だけの本を制作しました。ストーリーの理解が苦手な当事者のために、1 編ずつのショートストーリーを楽しむことができる写真版 LL ブックを目指し、第 1 作『わたしのかぞく：なにが起こるかな?』を 2015 年 4 月に刊行、その評価を受けて、第 2 作『はつ恋』(新版) を 2017 年 4 月に刊行しました。

2. 『はつ恋』(新版) 出版までの経過と特徴

2014 年までに、助成金(2011 年度日本コミュニケーション障害学会、2013 年度伊藤忠記念財団)を受けて、自費出版ベースで『はつ恋』『わたしのかぞく』という 2 冊の写真版 LL ブックを制作し、近隣の特別支援学校、障害者施設、公立図書館に寄贈してきました。また、現在でも電子図書として無料で公開しています。

2015 年には、みずほ福祉助成金と樹村房(出版社)の支援を受けて、一般図書として流通し、だれもが購入できる本として『わたしのかぞく：なにが起こるかな?』を出版しました。初版 1,000 部が完売し、重版出来となりました。今回出版した第 2 作『はつ恋』に続けて、今後も LL ブックの出版・普及を目指しています。

『はつ恋』は、だれもが憧れる恋をテーマにしています。青年、成人の年齢になると、自然と異性への興味が芽生えます。恋愛小説やエッセイ、詩集などを通して、恋や愛に憧れ、豊かな気持ちになることができます。しかし、一般図書を読むことができない知的障害の人たちには、そのような機会がほとんどありません。そこで、写真によって恋愛スト

一リーを楽しむことができる写真版 LL ブックを制作しました。憧れる少女とのはつ恋を実現させるために、悪戦苦闘する青年を描いています。4 コマ漫画の写真版のように起承転結の流れで、オチのあるコントを、1 編 5~6 コマ程度の写真で表現し、出会いからハッピーエンドまで 7 編で構成しています。また、文字が読めなくてもタイトルのイメージがもてるように、ピクトグラムで各編のタイトルを表記しています。

第 1 作に続いて、第 2 作『はつ恋』についても、兵庫県立ピッコロ劇団の制作協力を得て、質の高い作品を目指しています。

3. LL ブックについて：社会的背景など

LL ブックは、北欧を中心に普及しています。特にスウェーデンでは、1960 年代から知的障害者の読書権を平等に保障するという目的で、政府が資金を出して出版されてきました。現在では、対象を高齢者や移民、認知症に広げて、年間 30 冊、総数 800 冊（過去の出版冊数）を出版しています。その経費の半分は国費で負担されています。

一方、日本では、2007 年に行った近畿視覚障害者情報サービス研究協議会・LL ブック特別研究グループの調査によると、74 冊と報告されています。日本で LL ブックの冊数、種類が増えない理由は、知的障害者への読書保障について、社会的に関心が低いこと、スウェーデンのように国費による出版支援がないこと、利益があまり期待できない LL ブックの出版に出版社が積極的ではないことなどが考えられます。

平成 28 年度から「障害者差別解消法」が施行され、国や自治体には、差別を解消するための合理的配慮が義務づけられました。そのため、公共図書館や公立学校図書館では、障害に配慮した読みやすい LL ブックが必要とされています。写真版 LL ブックが好評を得ていることを機に、今後、様々なジャンルで多くの LL ブックが出版され、文字が十分読めない人たちも、読書を楽しめる日が来ることを望んでいます。

(藤澤和子・川崎千加・多賀谷津也子)